

東京農業大学稲花小学校

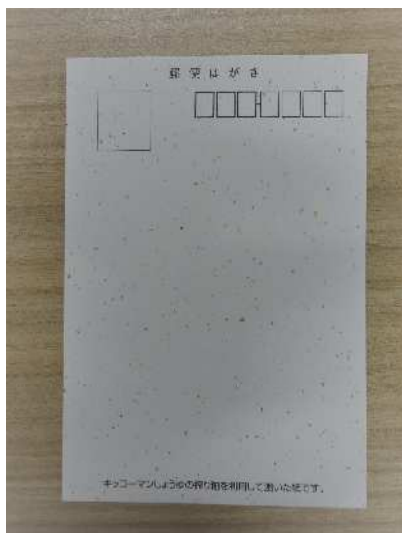
学校だより【2021年12月26日】第108号



しょうゆ塾開催

12月14日(火)の3年生稲花タイムは、「しょうゆ塾」でした。キッコーマン株式会社からしょうゆ博士とそのチームの皆さんが来校し、しょうゆが使われている食べ物は？から始まって、しょうゆは何からできる、しょうゆができるまで、歴史、分類、魅力……と充実した楽しい授業が進みました。しょうゆをしぼる「ろ布」を見たり、しょうゆ粕のにおいを嗅いだり、濃口、薄口、再仕込み、たまり、白の計5種類のしょうゆを観察し、味見をしたりしました。おいしいものを食べることが大切なのではなく、おいしくものを食べることが大切であるというお話は、子どもたちの心にも響いたことでしょう。子どもたちは授業の終わりに、しょうゆ粕を混ぜて作ったはがき(再生紙)と、特選特選丸大豆醤油ミニボトルをプレゼントしていただきました。

この授業は、東京農業大学総合研究所研究会の会長役をキッコーマン株式会社の代表取締役会長CEO堀切功章様にお引き受けいただいているというご縁によるものです。農大稲花小の児童向けに一層の工夫のある授業にさせていただきました。



キッコーマンしょうゆの搾り粕を利用して漉いた紙

キッコーマン株式会社：

<https://www.kikkoman.co.jp/index.html>

富士農場へ再び

12月16日(木)、先週の3年1組に続き、3年2組が、校外学習のために東京農業大学農学部富士農場(静岡県富士宮市)を訪問しました。

農場の皆さんに温かく迎えられ、経済動物としての鶏、豚、牛を人々がどのように大切に育成

し、利用しているかについて、学部 准教授 野口龍生先生にわかりやすい説明をしていただきました。

ふ化したてのヒヨコを見たり、当日の朝、誕生したばかりの仔牛が立ち上がる様子を見たりする機会にも恵まれました。仔牛が初めて立ち上がる様子を目の前で見た子どもたちには、忘れられない経験となったことでしょう。

一方、畜舎の臭いは、誰にとっても気になるものです。すでに3年生になっている子どもたちにはこの臭いが、大切な経済動物を育てるために必要なものであることを理解してほしいと願っています。子どもたちからは、「牛の餌はお漬物みたいなにおいだったよ」「豚があんなに大きいとは知りませんでした」などと素直な感想が聞かれました。卵、牛乳、畜肉を、感謝しておいしく頂けるようになる子どもを育てることも、農大稲花小の教育としてかせないものと考えています。なお、富士農場での様子がわかる画像は、在校生保護者のみが閲覧できる「在校生メニュー」でお届けしています。

東京農業大学富士農場：<https://www.nodai.ac.jp/campus/facilities/farm/fuji/>

赤鼻のトナカイ

新型コロナウイルス感染防止のため合唱についてはまだまだ制限のある中ですが、本校では音楽室ではなく風通しがよく広々とした多目的室を利用し、マスクをしたままで短時間のみという条件で、歌を歌う機会を作っています。12月になってから、校内に誰にも親しまれているクリスマスソング「赤鼻のトナカイ」の歌声が聞こえるようになりました。廊下から覗いてみると、子どもたちの表情が豊かなことに驚かされます。音楽だけではなく、図画工作の作品にも、それぞれの子どもの取り組みが見てとれます。また、体育で寒さの中でも思い切り体を動かす楽しさを感じているようです。音楽、図画工作、体育など、子どもたちの気持ちを外に向けて表現できる時間が大切なのだと実感しています。

茶道体験

12月21日(火)は3年生が、23日(木)は2年生が、稲花タイムで茶道を体験しました。これは東京農業大学 農友会茶道部の学生さんたちと、部長の東京農業大学造園科学科 教授 服部勉先生にお願いして実現したものです。

本校の和室での茶道体験では、学生部員が亭主を務め、学生部員や服部先生が半東兼説明係をしてくださいました。子どもたちも正座して、お菓子(両口屋是清 二人静)とお茶(京都 東茶園 さみどり)を味わいます。床の間には榎本武揚先生の漢詩を掲げました。一方、水屋とした隣接する家庭科室では、多くの先生方が影点てに大忙しでした。

グループごとにお茶を味わった子どもたちは、次に、袱紗捌きを習いました。袱紗を扱ううちにマジシャン気分になってしまう子どももいます。落ち着きのある子どもと落ち着きの無い子どもの違いが見えた場面でもありました。また、茶筴、茶杓、柄杓、茶箱、炭、白炭、水指、建水、さらに2年生では服部先生がお持ちくださった紅茶、緑茶、ウーロン茶の茶葉、チャの枝などを並べ、これも観察しました。「抹茶を一回にどのくらい入れるのですか」「どうして茶道部に入ったのですか」と子どもたちからの質問も多くありました。

最後に服部先生からお話を伺い、稲穂が描かれた茶道部伝統の「農大好み」の茶碗もを見せていただいた上、一人一人に「認定証 稲花小学校 茶道博士 2021」を授与していただきました。

お点前を集中して見ている子どもたちの様子、お茶をたしなまれているご家族の袱紗を持ってきた子どもやお茶を習っているという子どもも少なからずいることを知り、本校で茶道体験をすることの手ごたえを感じた日ともなりました。



学生によるお点前



茶道部からの認定証



茶掛け

東京農業大学 農友会 茶道部：

<https://www.nodai.ac.jp/campus/club/setagaya/noyukai/sado/>

東京農業大学 造園科学科 景観計画学研究室：

<https://www.nodai.ac.jp/academics/reg/land/lab/1202/>

終業式

12月24日(金)は2学期の最終日でした。子どもたちは、平常の授業に加えて、学級ごとに教室などを清掃したり、お楽しみ会をしたりしてこの日を過ごしました。

終業式は校内テレビ放送で行いましたが、校長からはまず、先生の方をまっすぐ見て授業を受ける姿勢、友だちの意見に耳を傾ける姿勢、字をきちんと書こうと真剣に取り組む姿勢、グラウンドや体育館で友だちと楽しく運動したり遊んだりする様子、図書室でたくさん本を楽しむ様子、給食をおいしく食べる様子、登下校で上級生と下級生が助け合う様子など、うれしい場面がたくさん見られたことを伝え、子どもたちの頑張りを誉めました。2学期に先生からご注意を受けたことを、3学期は必ず直すという決意も求めました。

続けて、「えーっ」「いやだ」「できない」と言ったり、言い訳をしたり、場合によってはうそをついたりするというような「残念言葉」の話をしました。「残念言葉」を言う子どもの顔は、残念な顔になっています。「残念言葉」を聞いた人は、残念な嫌な気持ちになります。一方、「ありがとう」「大丈夫だよ」「一緒にやろうよ」と前向きな「元気言葉」やそれに伴う行動をする子どもの顔は、良い顔になっています。友だちと楽しく一緒に学んだり遊んだりできるよう、それぞれが3学期からも努力してほしいことを伝えて、講話としました。

冬休みは短いですが、家族と温かく落ち着いた時間をもつ適期でもあります。保護者の皆様には、まだまだ幼い子どもたちの気持ちや体調に寄り添ってお過ごしいただくようお願いします。そして、皆様にはよいお年をお迎えください。

校長 夏秋 啓子